

お申込みはこちら！ >>

ポケットに、
エネルギー情報を



2015年4月 リム新書発刊。

第1回配本は、阿部直哉著 ニュースでわかる「世界エネルギー事情」



 **RIM**
RIM INTELLIGENCE CO.

阿部直哉著 ニュースでわかる「世界エネルギー事情」

本書『ニュースでわかる「世界エネルギー事情」』は、日々配信されるニュースやリリースなどをもとに、各国・地域別にエネルギー最新情報をまとめたものです。また、専門家の見解を紹介することで、世界中で展開されるエネルギー分野の動きを知ることができるようにしました。さらに、今後のエネルギー動向を探るうえで、ヒントが得られると考えています。

価 格		
1冊 926円（消費税別、送料別）		
目 次		
第1章 原油安ショック OPEC総会＝「減産」をめぐる加盟国の攻防―ベネズエラが行脚し説得 原油安＝米国はシェール投資が減少、ロシアはプロジェクト実現困難へ OPEC減産見送り＝ベネズエラが国家予算削減、中国は備蓄量増加へ 原油安＝新規プロジェクト投資決定の延期が表面化 原油安＝2015年の石油プロジェクトの多くが棚上げか？ OPECで早くも足並みの乱れ？ イラクが輸出増へ 原油安＝企業の資産売却や開発投資額の削減に拍車かかる 原油安＝米国内に製油所を持つ企業の多くは収益改善 原油安＝米独立系エネルギー企業には深刻、予算編成で四苦八苦 2015年の原油生産量が非OPEC産油国で増加見通し 原油安ショック＝原油価格ほどの水準まで耐えられるのか？ 原油安＝インドネシアは土地課税撤廃、米レンジは集中投資 原油安＝油田サービス企業が人員整理、オマーンがOPEC批判 原油安＝企業活動に悪影響が出るなか、OPECは現状維持 第2章 北米エネルギー事情 シェール革命の成否＝フラクチャリング技術の開発競争で凄まじる 米国シェール事情＝エネルギー旋風を巻き起こすノース・ダコタ州 米テキサス州＝パイプライン輸送開始、新規油田で原油生産の活況続く 米オクラホマ州＝頻発する地震発生で「シェール犯人説」が浮上 米カリフォルニア州＝リッチモンド市議会で製油所の近代化を承認 米国エネルギー事情＝「シェールの風が吹けば、砂塵が儲かる」 米国エネルギー事情＝原油増産で止まらぬ「鉄道」輸送量の増加 米国＝好調な原油とシェールガス生産が明白も、原油安が懸念材料 ALF-CIOが警告＝石油・ガス事業従事者の高い労災死亡率 米英専門家＝シェール革命で米国は「Game Changer」と成り得ない？ 米政府＝国内でのエネルギー開発プロジェクトで助成、融資保証へ 米国の「原油輸出解禁」が現実味、実現すれば40年ぶり 原油輸送手段をめぐる攻防＝米パイプライン建設は「NIMBY」か？ 米中間選挙＝キーストン・パイプライン建設許可期待感 共和党圧勝 米国＝パイプライン法案が上院で可決、コンデーンスト輸出解禁へ動きも カナダ＝オイルサンド（油砂）開発の現状と見通し カナダ＝米日のベレゼン社長、ジョーダン・コープLNG優位性を強調 カナダ＝太平洋洋で進むPPEC製油所計画、投資額は100億ドル カナダ＝LNG輸出税に注目―外資の事業撤退やプロジェクト延期で 第3章 ロシア・エネルギー事情 ウクライナ問題＝ロシアとのエネルギー「密約」阻止で政変へ ウクライナ問題＝2014年のガス輸入、パイプライン逆走で解決か ウクライナ危機＝外交カードとしての役割を担う国営ガスパロム ウクライナ情勢＝日米欧とロシアの制裁合戦、中国に漁夫の利か ロシア＝欧米の制裁を睨み、エネルギー開発で中国に傾斜強める ロシア＝キューバ（沖合の深海油田探査）に乗り出す、ペンタゴンが懸念 ロシア追加制裁＝内憂外患のオバマ政権、石油メジャーも反旗 ロシア＝中国の次は「インド」に触手、欧米と政治的な乖離が際立つ ロシア＝石油メジャーに警告、撤退すればプロジェクトをアジア企業に ロシア＝制裁発動など逆風下の石油・天然ガス開発で強気貫く ロシア＝事業縮小する石油会社なし、政府は緊縮財政で乗り切りか ウクライナ＝EUからガス輸入、LNG基地を計画―政変半年で政勢 ロシア＝トルコとのさらなる協力関係へ、パイプライン建設で新会社 第4章 オセアニア・エネルギー事情 豪州＝2014年はブラウズ鉱区などで入札実施 豪州＝クイーンズランド州で中心的存在となった「炭層ガス」 豪州＝天然ガス売上の契約先探しで四苦八苦、値下げ合戦に発展も 豪州＝「リザーブ」運動が広がる―国内向け天然ガスの一定量確保を 豪州＝資源ブームは新たなステージ―投資から生産段階へ ニュージーランド＝自然エネルギーを重視する独自路線を貫く パプアニューギニア＝日本向けLNGタンカーが初入港―式典開催	第5章 中東エネルギー事情 サウジ＝OPECの有効性を疑問視か、総会の年1回開催を提案 サウジ＝天然ガス開発で「在来型」から「非在来型」に方向転換へ クウェート＝陸上重質油田の開発、製油所の増設・新設を加速 クウェート＝国内製油所の再編・新設で400億ドル規模の投資計画 UAE＝アブダビ陸上油田の権益獲得で競争激化、海外勢が入札へ UAE＝世界三大バンカリング拠点として発展する酋長国「フジャイラ」 ヨルダン＝シェールオイル発電計画を承認、エストニア企業が参入へ オマーン＝同国初のタイトガス商業生産が本格スタートへ イエメン＝政権崩壊で混迷度が増幅―LNG輸出の停止で不可抗力宣言も トルコ＝周辺国の紛争に振り回されるも、黒海での石油開発に注目 イスラエル＝リビアアサンガス田の埋蔵量が増加、最新探査で判明 イラク＝好調な原油生産で求められる出荷ルートの多様化 イラク＝追いつかぬインフラ整備、出荷能力の増強がカギ イラク中央政府＝クルド地域政府とパイプライン原油輸送で火花散らす イラク中央政府が「密輸」とするクルド原油の扱いで外資企業が困惑も イラク情勢＝イスラム国の「原油」闇取引、1日200万ドルに上る？ イラン＝中国を痛烈に批判、権益没収も示唆、工期遅延の油田開発で イラン＝エネルギー開発契約の条件見直し本腰か、外資にラブコール イラン＝天然ガス輸出大国へ、カザフ・バースガス田の開発動向 イラン＝イラクと関係強化へ、パイプラインやCNG基地建設計画で イラン＝製油所の近代化計画が活況、ファンドの融資が必要とも 第6章 アジア・エネルギー事情 中国エネルギー事情＝国営石油企業の採掘開発の現状と見通し 中国の天然ガス事情＝「需給ギャップが当面拡大、輸入比率が上昇へ」 2020年までに北京市の主要地区で「石炭」の使用を禁止へ 中国＝シェールガス開発の目標値を縮小し、タイトガス開発にシフト 中国＝シェール開発で苦戦続く、政府は第3次入札に2つの足を踏む バングラデシュ＝LNG受入基地計画の遅延懸念、政治的安定が先決 韓国＝第2次国家エネルギー計画、原発7基分の容量不足が露呈 アゼルバイジャン＝欧州向けTAP選定から1年、独仏企業が撤退 アゼルバイジャン＝インドやロシアとの連携強化も、課題が山積 カザフスタン＝シムケント製油所工事の着工が15年春まで延期へ トルクメニスタン＝ベルディムハメド大統領が天然ガス増産を指示 インド＝ロジャラート州でLNG基地、製油所の建設計画が目白押し パキスタン＝エネルギー分野で中印が綱引き、安全保障面で牽制も インドネシア＝チェブ鉱区で原油生産へ、生産減の歯止めとなるか インドネシア＝天然ガスへの転換を図る、米国とLNG輸入交渉へ インドネシア＝15年原油生産の目標値―想定外を加味し増加幅を抑制 マレーシア＝7番目の製油所建設へ―石油製品の自給力向上で タイ＝PTTEPがモザンビーク進出、PTTEPがバンママーで投資へ ベトナム＝新規油田の開発、製油所プロジェクト着工で活況 ベトナム＝エネルギー事業が活発化、北極圏の油田開発にも進出へ ミャンマー＝天然ガス調達で最大輸入国のタイを脅かす中国の存在 第7章 中南米エネルギー事情 メキシコ＝エネルギー―新時代到来か―外資系が早くも参入機会窺う メキシコ＝ベメックスのロソヤCEOが来日、日本への投資呼びかけで パナマ＝運河拡張工事の遅延でシェール輸入の日本にコスト負担増か ニカラグア＝大運河計画に冷めた眼差し、パナマ拡張工事の8倍規模 ブラジル＝極限状態にある製油所の稼働率、政府が罰金科すケースも ブラジル＝ブレソルト石油生産が50万バレル、開発余力に疑問の声も アルゼンチン＝シェール開発に熱視線、参入待ちの企業が相次ぐ ベネズエラ＝「CITGO」売却へ、苦境に喘ぐ経済立て直しで ベネズエラ＝2015年の国家予算編成で原油価格を60ドルに設定へ ベネズエラ＝製油所での安全対策が急務―火災事故の多発で ベネズエラ＝石油開発が停滞、政府の政策再検討の見方が併存 コロンビア＝石油可採年数10年未満、埋蔵量確保の大規模入札へ チリ＝2016年上半年にも米国産シェールガスを輸入へ	第8章 アフリカ・エネルギー事情 エジプト＝厳しさを増すガス需給、夏場を乗り越えられるかが正念場 ナイジェリア＝原油泥棒が横行、企業は「バンカリング」に泣き寝入り ナイジェリア＝石油盗難の回避で外資開発が「内陸」から「沖合」へ アルジェリア＝「イナメナス事件」後で初の入札説明会を開催へ アルジェリア＝不調の新ライセンスラウンド、31鉱区中で落札は4鉱区 アルジェリア＝石油・天然ガスの輸出低迷で「シェールガス」に活路 リビア＝治安悪化で産油量激減も、豊富な外貨準備高で危機感なし リビア＝原油増産態勢へ、国際市場への本格的な復帰となるか モロッコ＝大西洋沖合で探鉱活動、外資の新規参入が相次ぐ ガーナ＝原油生産の倍増・天然ガス計画が始動へ、エボラ出血熱が懸念 ウガンダ＝同国初の製油所建設プロジェクト入札合戦が佳境に入る アンゴラ＝同国初のLNGプラント、運転停止が長期化の様相 モザンビーク＝外資のGTL計画が始動、周回遅れの日本は巻き返しへ スーダン＝国内で天然ガス開発とLNG輸入を検討―大統領が表明 チャド＝石油収入配分で外資との亀裂が鮮明、エネルギー管理強化へ 第9章 欧州エネルギー事情 英国＝エリザベス女王が議会演説、シェール開発推進でスピーチ 英国＝シェットランド諸島の西側地域を重点開発へ 英国＝スコットランド独立の是非を問う住民投票に注目 スコットランド＝英教授が「北海油田は2050年以降も採掘可能」 英国＝縮小する北海大陸棚での石油開発事業―探査費用の高騰で 英国＝シェール「水圧破壊工法」で環境監視委が開発中断を提案 ドイツ＝水圧破壊がネックも、シェール開発に動き出す機運 フランス＝原発依存でシェール開発の緊急性が乏しい現実 ポーランド＝シェールガス開発で誤算、外国企業の撤退が相次ぐ ポーランド＝シェール開発で法規制改正の動き、巻き返しなるか バルト3国＝前途多難な原子力発電所の建設プロジェクト バルト3国＝ロシア原発建設の情報不足を懸念 バルト3国＝ロシアからの依存脱却で試行錯誤 フィンランド＝LNG基地建設を延期、E.Cから支援得られず ルーマニア＝大統領選で「シェールガスは存在しない」―首相発言が波紋 クロアチア＝LNG基地で欧州が支援、ロシアを刺激するとの懸念も ノルウェー＝「バルンツ海共同探査」が始動、極地に向かう開発地域 LNGバンカリング＝北海、バルト海で増加―排ガス規制強化で デンマーク＝シェール開発に本格参入か、市議会がガス試掘を許可へ 北欧3国＝ノルウェーで未開発埋蔵層、スウェーデンでLNG基地建設 東欧＝モルドバ、リトアニアで進むロシアからのエネルギー依存脱却 第10章 海外エネルギー事情 エネルギー―資産争奪戦＝銀行撤退で一気呵成の投資会社・ファンド勢 海外石炭事情＝環境規制で需要が鈍化も、生産能力の増強で供給可能 海外製油所＝2020年までの製油所への投資額は3,330億ドル 製油所の近代化で明確＝勢いづくアジア勢、苦戦する欧州勢の構図 欧州製油所＝現実味を帯びる今後10年以内に10カ所程度の閉鎖 米国＝国内で製油所の新設計画が目白押し、原油安が後押し 海外エネルギー事情＝保有資産の売却で事業再構築の動き 植物由来のエタノール＝増産傾向も原油安で再び生産反対の声も 中東・アフリカの地政学リスク＝紛争激化で外資企業の撤退が相次ぐ エネルギー＝プロジェクト中断や撤退に追い込まれるケース IEA事務局長＝ガス業界は変化に即応を―LNG開発プロジェクト EIA＝世界石油輸送のチョークポイント（渋滞地点）レポートを公表 航空産業＝バイオ燃料プロジェクトに積極投資、商業飛行も始まる ジェット燃料＝中国が地油、英HSCが廃ガス由来の開発計画に参画 ジェット・船舶燃料＝技術革新が輸送コスト軽減、環境負荷の低減へ バイオ燃料＝米ゲボが製造を増加、フルトハンズはオスロ発便に使用 世界のLNG基地建設＝相次ぐ完工、ガス受入計画が急ピッチで進む 世界エネルギー事情＝LNG事業で投資ラッシュ、供給過剰懸念も 石油・天然ガス採算コスト＝オイルサンドと北極圏が最も高価な資源 増加するエネルギー輸送で脚光を浴びる「北極海航路」